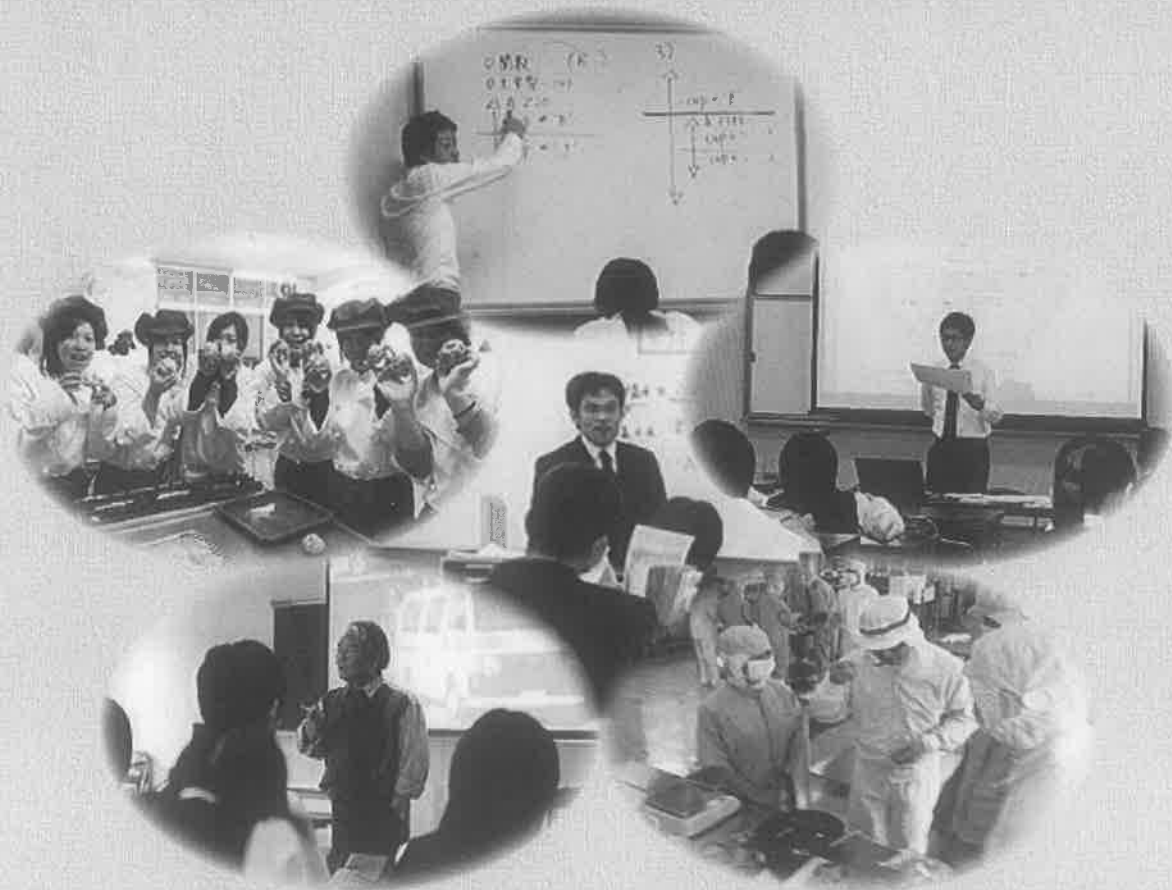


文部科学省：「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業費」補助事業

# 土曜日の豊かな教育の推進

## — 教育課程外の豊かな学び —

(平成26年度 地域人材を活用した土曜教育推進事業 実践事例集)



愛媛県教育委員会

## はじめに

学校週5日制が、平成14年4月から完全実施されて、13年近くが経過いたしました。学校・家庭・地域の三者が連携し、役割分担しながら社会全体で子どもを育てるという基本理念の下、地域において学習やスポーツ、体験活動の場が提供され、土曜日に様々な経験や豊かな学びを重ねる子どもたちが増えてまいりました。しかし、一方で、必ずしも土曜日を有意義に過ごせていない子どもたちも少なからず存在する状況にあります。

そこで、文部科学省では、平成25年9月30日「土曜授業に関する検討チーム」の最終まとめにおいて、土曜日を有意義なものとして過ごすことによって、子どもたちの生きる力の育成等が一層図られるとの考えを示すとともに、これを踏まえて、質の高い土曜授業や、地域社会・産業界と連携した学習・体験プログラム等の実施のための支援策を盛り込んだ「土曜日の教育活動推進プラン」を策定し、学校・家庭・地域・企業等の連携により、全体として子どもたちの土曜日の教育環境が充実したものになるよう、支援に取り組むとの方針が打ち出されました。

愛媛県においても、今年度から子どもたちの豊かな土曜日の教育環境を図るため、「地域人材を活用した土曜教育推進事業」において、県立高等学校6校でモデル的に土曜日の教育活動を実施し、多様で変化の激しい社会を生き抜くために必要な力の育成を支援してまいりました。そして、愛媛県土曜教育支援推進協議会を設置して、この事業の検証・評価及び研修会の開催により事業関係者の情報交換・資質向上等、土曜日の教育支援体制づくりの推進に取り組んでまいりました。

本実践事例集は、これら土曜日の豊かな教育の推進に係る取組みをまとめたものです。関係者各位に御高覧いただき、今後の土曜日における教育活動及び教育支援の充実・発展に役立てていただければありがたく存じます。

終わりにになりましたが、本冊子の作成にあたり、御指導・御協力をいただきました愛媛県土曜教育支援推進協議会の委員の皆様をはじめ、関係機関の皆様方に、心より御礼申し上げます。

平成27年3月

愛媛県教育委員会生涯学習課長  
越智 孝

# も く じ

## はじめに

### I 事業概要

1 事業の全体像	4
2 愛媛県土曜教育支援推進協議会	6
3 研修会の開催	7

### II 教育活動

○ 平成26年度「地域人材を活用した土曜教育推進事業」実施校事業一覧	9
------------------------------------	---

#### 【小松高等学校】

○ 食物・被服・保育・福祉分野のプロフェッショナルから学ぶ技術講習	10
-----------------------------------	----

#### 【今治北高等学校】

○ 日商簿記受験対策講座	12
○ 基本情報技術者試験受験対策講座	14

#### 【松山南高等学校砥部分校】

○ 問題解決のためのデザイン	16
○ 陶芸作品の制作～砥部焼の魅力～	18
○ 伝統文化に触れる茶道教室	20

#### 【松山商業高等学校】

○ 日商簿記受験対策講座	22
○ 日商販売士検定受験対策講座	24
○ 語学検定受験対策講座	26
○ 基本情報技術者試験受験対策講座	28
○ ITパスポート試験受験対策講座	30

#### 【川之石高等学校】

○ 川高セミナー	32
----------	----

#### 【宇和島水産高等学校】

○ 食育に関する活動及び缶詰開発	34
○ 森・里・海をみつめた環境教育	36

III 成果と課題	39
-----------	----

(参考：アンケート調査結果)

# I 事業概要

1	事業の全体像
---	--------

## 1 趣旨

地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の豊かな社会資源を活用して、体系的・継続的なプログラムを計画・実施できるコーディネーターと土曜教育推進員を配置し、教育支援体制の構築を図ることにより、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する。

## 2 事業の概要

### (1) 「土曜教育支援推進協議会」の設置

#### ア 主な役割

- 事業のあり方・成果等についての検証・評価
- 土曜日の教育活動及び教育支援のあり方の検討 等

#### イ 人数

14名（学識経験者、福祉関係者、学校教育関係者、社会教育関係者等）

#### ウ 開催回数：3回

### (2) 研修会の開催

#### ア 目的

本事業関係者が一堂に会し、土曜教育活動の成果と課題を検討し、関係者の資質向上を図る。

#### イ 回数 3回（※内1回は事務担当者会。3回とも松山市で実施）

#### ウ 内容 講演、事例研究、協議等

### (3) 普及啓発活動

#### ア 目的

事業の趣旨や事業実施校の優れた土曜日の教育活動を掲載したリーフレット及び事例集を作成・配布することにより、本事業の意義及び効果的な手法等についての波及を図るとともに、社会全体で子どもの健全育成を図っていく土曜日の教育支援体制づくりについて普及啓発を行う。

#### イ 広報リーフレット作成・配布

- 内容：事業の趣旨や意義、実践事例の紹介
- 作成部数：1,800部
- 配布先：市町教育委員会、小・中・高校、公民館、社会教育団体、企業等
- ホームページで公開

#### ウ 事例集の作成・配布

- 内容：事業実施校の実践事例等の紹介
- 作成部数：1,500部
- 配布先：市町教育委員会、小・中・高校、公民館、社会教育団体、企業等
- ホームページで公開

(4) 教育支援活動の実施

ア コーディネーターの委嘱

- 学校教育及び地域活動に精通している人材を、コーディネーター候補として学校長が選考・推薦し、県教委が承認し委嘱する。
- コーディネーターは、関係者と連絡・調整しながら、各校・各地域の実情に応じた取組内容の企画・運営を行う。

イ 土曜教育推進員（外部講師）の選考

- 学校は、希望する土曜日の教育内容・日程等をもとに、適切な土曜教育推進員を選考し、県教委に報告する。
- 土曜教育推進員は、コーディネーター及び学校と十分な連絡調整の上、土曜日の教育支援を実施する。

ウ 実施回数

- 年間 10 回程度とする。

エ 報告

- コーディネーターは、活動内容について所定の様式により県教委に報告する。

(5) 学校訪問の実施

ア 目的

土曜教育の現状を視察し、県教育委員会と事業実施校、コーディネーター、土曜教育推進員等が協議することにより、子どもたちにとって有意義な土曜日の教育活動や教育支援体制の構築を期する。

イ 訪問日程

月	日	高校名	内容
10	4	松山南 砥部分校	問題解決のためのデザイン 陶芸作品の制作 伝統文化に触れる茶道教室
	11	松山商業	基本情報処理技術者試験対策講座
	18	小松	小物づくり
	25	宇和島水産	缶詰の魅力、開発理論・実践
11	1	今治北	日商簿記受験対策講座
1	10	川之石	公務員指導・就職指導・進学指導

2	愛媛県土曜教育支援推進協議会
---	----------------

### 1 概要

#### (1) 目的

地域人材を活用した土曜教育推進事業を、円滑かつ効果的に実施するとともに、土曜日の教育活動及び教育支援に関する施策のあり方や成果等について検証・評価等を行う。

#### (2) 委員構成

学識経験者、福祉関係者、学校教育関係者、社会教育関係者 等

#### (3) 業務

- 人材育成、地域や企業等の支援、学校との連携など、土曜日の教育支援に取り組む体制づくりの検討に関する事。
- 事業のあり方及び検証、評価に関する事。
- 土曜日の教育支援に係る県の施策に対する助言及び協力

### 2 平成 26 年度委員名簿

	氏名	職名
会長	金本 房夫	愛媛県市町教育委員会連合会会長
副会長	泉谷 睦美	愛媛県高等学校 P T A 連合会会長
委員	平松 義樹	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター教授
	山田 誠	愛媛大学教育学部准教授
	森藤 裕子	宇和島市三間中学校校区学校支援地域本部コーディネーター
	安岡 史朗	松山南高等学校砥部分校土曜教育コーディネーター
	杉原美由紀	愛媛県 P T A 連合会副会長
	樋口 志保	愛媛県学童保育連絡協議会会長
	砂田 宏司	愛媛県公民館連合会副会長
	片野美穂子	愛媛県国公立幼稚園 P T A 連合会事務局長
	垂水 勉	愛媛県小中学校長会委員
	大浦 哲雄	愛媛県高等学校長協会理事
	岩本 透	愛媛県経済同友会経営戦略委員長
	渡部智磨子	公募委員

### 3 会議の主な内容

回数・実施日	会場	主な協議内容
第 1 回 H26. 7. 29 (火)	にぎたつ会館	○事業の概要について ○本年度の取組みについて
第 2 回 H26. 11. 28 (金)	愛媛文教会館	○平成 26 年度事業実施状況報告 ○実践事例発表
第 3 回 H27. 3. 13 (金)	にぎたつ会館	○平成 26 年度事業実施状況及び成果と課題等の報告と協議 ○平成 27 年度事業について

## 1 目的

事業実施にあたって、実施校の土曜教育コーディネーター、土曜教育推進員、管理職、担当教職員等が一堂に会し、事例発表や協議、講演を通じて、関係者の資質向上を図るとともに教育活動の支援や支援体制の充実を期する。

## 2 内容

### (1) コーディネーター委嘱式 並びに 第1回研修会（事務打合せ）

ア 日時 平成26年5月1日（木）13:30～15:10

イ 場所 県庁第一別館11階会議室

ウ 内容

- コーディネーター委嘱式
- 「土曜教育」実施要領打合せ
- 会計管理打合せ
- 各校年間活動計画説明

### (2) 第2回研修会

ア 日時 平成26年8月8日（金）10:00～11:45

イ 場所 松山市総合コミュニティセンター

ウ 内容

- 実践事例発表・研究協議  
発表校 松山南高等学校砥部分校  
指導助言 文部科学省生涯学習政策局社会教育課長 谷合 俊一 氏
- 講演 「地域人材を生かす土曜教育の進め方」  
講師 文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域学習活動企画係長  
入江 優子 氏

### (3) 第3回研修会

ア 日時 平成27年2月19日（木）13:30～15:30

イ 場所 にぎたつ会館

ウ 内容

- 各事業実施校の取組状況及び成果と課題の報告
- 協議・意見交換
- 来年度の事業について



## II 教育活動

平成26年度「地域人材を活用した土曜教育推進事業」実施校事業一覧

高等学校名	コーディネーター氏名・目的	学習プログラム	実施日数	実施時間	予定の生徒数	土曜教育推進員 (◎は県外特別講師)	実施期間
1 小松高等学校	宇佐美友子（県青少年育成指導員・児童クラブ指導員） 調理や縫製等の専門家による技術指導や講義を通して技術の向上を図るとともに、地域産業や地域社会についての理解や貢献の意識を深める。	レクリエーション講義 フラワーアレンジメント 料理講習会 絵本の読み聞かせ 小物づくり	1 3 3 1 2	2 7 9 2 6	285	とよレクリエーション協会 フラワーデザイナー 専門学校 3名 西条市立図書館副館長 NPO法人 2名	5. 10～ 1. 17
2 今治北高等学校	久保 徳之（大原簿記公務員専門学校 愛媛校 教頭） 専門的知識を有する指導者による講義を実施し、難易度の高い国家資格等の取得を目指し、ビジネス社会で活躍できる人材を育てる。	日商簿記受験対策講座 基本情報技術者試験受験対策講座	5 5	30 20	164	専門学校 2名 専門学校 3名	8. 30～ 2. 7
3 松山南高等学校 砥部分校	安岡 史朗（県産業技術研究所窯業技術センター嘱託研究員） 地域の企業の職人・技術者等を招いてより高い制作技術や実践的な企画力を磨くとともに、地域の伝統文化のよさに触れさせる。	問題解決のためのデザイン 陶芸作品の制作 伝統文化に触れる茶道教室	10 10 10	30 30 30	393	デザイナー コピーライター イラストレーター 陶芸家 茶道講師	5. 24～ 3. 14
4 松山商業高等学校	平井 貢（河原電子ビジネス専門学校校長） 専門的知識を有する指導者による講義を実施し、難易度の高い国家資格等の取得を目指し、地域産業を担うビジネスのスペシャリストを育てる。	日商簿記受験対策講座 日商販売士検定受験対策講座 語学検定受験対策講座 基本情報技術者試験受験対策講座 ITパスポート試験受験対策講座	5 2 2 5 5	30 8 8 30 30	590	専門学校 3名 専門学校 松山大学 4名 専門学校 専門学校	5. 24～ 3. 28
5 川之石高等学校	清家 信孝（初任者指導教員・元校長） 多様な進路選択を行う生徒に、企業や地域の講師を招いた面接指導や講義を行い、一人一人に応じた進路実現を図る。	公務員セミナー 就職指導 進学指導	5 3 6	4 8 20	223	専門学校 2名 企業関係者 2名 専門学校 1名 教職経験者 3名 医療系従事者 ◎専門学校	6. 7～ 1. 17
6 宇和島水産高等学校	入江 政人（地元真珠養殖業者・元同校PTA会長） 専門家の指導により水産業や環境保全についての知識を深め、水産品加工の技術等を高めることにより、地域貢献に取り組ませる。	食育に関する活動及び缶詰開発 環境教育及び魚食教育	11 5	50 26	143	石釜つくり名人 料理研究家 ◎缶詰博士 ◎缶詰料理研究家 農業経営者 魚類養殖者 NPO法人	5. 31～ 3. 28
合 計			99	380	1798	45名（内◎3名）	

小松高等学校	No. 1	食物・被服・保育・福祉分野のプロフェッショナルから学ぶ技術講習			
教育活動の目的	学校では学ぶことの難しいプロの技術を学ぶことによって、学習意欲を高め、衣・食・保育等様々な分野での技術を向上させ、地域産業や地域社会への理解や貢献の意識を深めさせる。				
校長氏名	山田 里美	対象学科 学年	ライフデザイン学科 1・2・3年	教育活動 実施日数	10 日
コーディネーター氏名	宇佐美 友子	参加のべ 生徒数	285 名	教育活動 時間数	26 時間
土曜教育推進員	玉井 初美	フラワーデザイナー	フラワーアレンジに関わる講話や指導		
	大佐古正子	愛媛調理専門学校	調理に関する講話や指導		
	佐々木 茂	愛媛調理専門学校	調理に関する講話や指導		
	石本 耕一	河原バライシエ・医療・観光専門学校	調理に関する講話や指導		
	吉木 幸	とうよレクリエーション協会	レクリエーション方法の講話や指導		
	黒川 孝利 黒川 弘将	NPO法人やってみん会	縫製技術の指導や小物製作の指導		
	越智つや子	西条市立図書館副館長	紙芝居・絵本の読み聞かせの指導		

#### 【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 5. 10	レクリエーションの方法を習得する。	2	和室	35
②	H26. 5. 24	西洋料理の調理技術を学ぶ。	3	調理室	37
③	H26. 6. 21	フラワーアレンジメントを学ぶ。(夏のアレンジメント)	2	調理室	17
④	H26. 7. 26	魚料理の調理技術を学ぶ。	3	調理室	37
⑤	H26. 9. 20	保育実習のための絵本や紙芝居の読み聞かせの要領を学ぶ。	2	HR教室	30
⑥	H26. 10. 18	小物の被服製作を通じて縫製技術を高める。	3	被服室	18
⑦	H26. 10. 25	小物の被服製作を通じて縫製技術を高める。	3	被服室	21
⑧	H26. 11. 22	フラワーアレンジメントを学ぶ。(クリスマスアレンジメント)	2	調理室	17
⑨	H26. 12. 6	洋菓子の調理技術を学ぶ。	3	調理室	37
⑩	H27. 1. 17	フラワーアレンジメントを学ぶ。(卒業生のためのコサージュ)	3	保育室	36

#### 【教育活動の実際】

①⑤レクリエーション方法を習得する。保育実習のための絵本や紙芝居の読み聞かせの要領を学ぶ。



西条市立図書館の方に絵本・紙芝居の読み聞かせやエプロンシアターの技法について学び、グループに分かれて発表会を行った。保育所訪問の際、この経験を生かすことができた。

とうよレクリエーション協会吉木幸先生をお招きし、小松福祉センターで行うデイサービス実習に使えるレクリエーション講義を受けた。

折り紙を3枚使って、回るコマを折り、みんなでどれだけ長く回るか競争した。とてもきれいに回り、利用者の方へのプレゼントにもなると思った。また、輪になって手遊びや歌に合わせてストレッチ体操をした。



②④⑨西洋料理や魚料理、洋菓子の調理技術を学ぶ。

〔西洋料理〕



技術検定1級指定調理「黄身酢」を使った料理・「2色ゼリー」のコツを学んだ。

〔魚料理〕



あじの三枚おろしを学習した。家庭でも魚料理ができる自信につながった。

〔洋菓子〕



シュークリームの作り方を学習した。思ったより簡単にふくらんで感激した。

③⑧⑩フラワーアレンジメントを学ぶ。

〔夏のアレンジメント〕



夏のテーブルを彩るアレンジとクリスマスアレンジを製作し、校内に飾った。

〔クリスマスアレンジメント〕



〔卒業生のためのコサージュ〕



可愛くまとめることができた。

⑥⑦小物の被服製作を通じて縫製技術を高める。



NPO法人「やってみん会」の黒川縫製さんにポシェット作りを指導していただいた。アイロンのかけ方、ミシンの使い方、1mmたりともずれてはならないファスナー付けなどプロの技・厳しさを学習した。

【生徒の意見・感想】

- ・部活が忙しく、貴重な時間を割かれると思っていたが、思ったより楽しく、ためになる授業だったのでよかった。
- ・普段学べないことが楽しく学べ、知識も深めることができてよかった。
- ・以前より充実した土曜日を過ごすことができたが、自分の趣味等に使える自由時間が減った。

【成果】

- ・地域で活動している方に直接指導していただき、「地域との関わり」が身近になった。
- ・生徒一人一人に丁寧な指導をしていただき、生徒の学習意欲に結びついてきた。
- ・職人技という伝統・伝承に関わり、地域と歩む講座となった。
- ・学んだ技術を学校での授業や家庭生活に応用できている。
- ・将来の進路選択にも役立っている。

【課題】

- ・参加できない生徒が出てしまう。学びの場であり、授業につながる土曜教育としていので、全員が参加できるようにしたいが、部活動の練習試合や地区大会への参加、専門学校の体験入学への参加、技術検定1・2級や模擬試験との兼ね合いがあり、日程調整の点で課題がある。

今治北高等学校	No. 1	日商簿記受験対策講座			
教育活動の目的	ビジネス社会で活躍できる人材の育成のため、難易度の高い日商簿記検定等への合格を目指し、土曜日に受験対策講座を実施し、専門学校の講師の方に指導していただき、専門的な知識を身に付けさせる。				
校長氏名	石川 達也	対象学科 学年	商業科 2年	教育活動 実施日数	5日
コーディネーター氏名	久保 徳之	参加のべ 生徒数	82名	教育活動 時間数	30時間
土曜教育推進員	高路 正明 高橋 陣	大原簿記公務員専門学校 大原簿記公務員専門学校	工業簿記・原価計算の指導 商業簿記・会計学の指導		

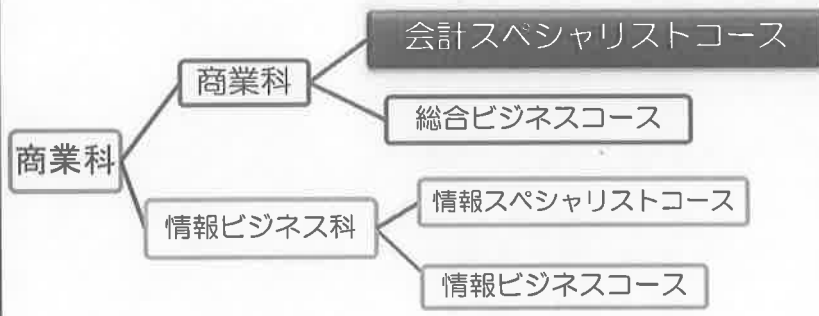
【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 9. 13	簿記に関する専門的な知識を習得する。 (工業簿記/原価計算：個別原価計算)	6	簿記会計実習室	18
②	H26. 9. 20	簿記に関する専門的な知識を習得する。 (商業簿記/会計学：連結会計)	6	簿記会計実習室	17
③	H26. 10. 18	簿記に関する専門的な知識を習得する。 (工業簿記/原価計算：総合原価計算)	6	簿記会計実習室	14
④	H26. 11. 1	簿記に関する専門的な知識を習得する。 (商業簿記/会計学：外貨換算会計・デリバティブ会計)	6	簿記会計実習室	16
⑤	H27. 2. 7	簿記に関する専門的な知識を習得する。 (工業簿記/原価計算：設備投資の意思決定)	6	簿記会計実習室	17

【教育活動の実際】

今治北高等学校商業科 商業科のコース

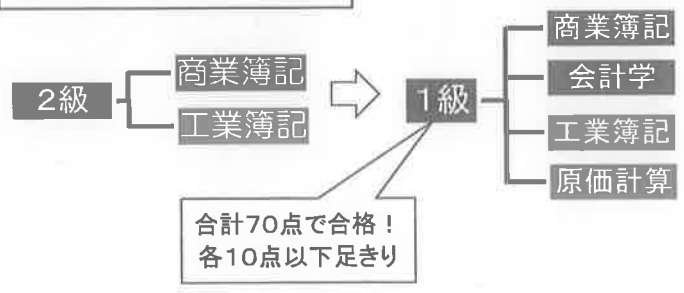
今治北高等学校商業科では、2年生から二つのコースに分かれて学習します。



商業科では、商業科と情報ビジネス科があり、2年生からそれぞれコースに分かれて勉強をします。

商業科の商業科は簿記を中心に学習し、会計スペシャリストコースでは、日商簿記1級や全経上級の合格を目標に学習を進めています。

日商簿記1級取得への道のり



会計スペシャリストコースが目指して学習している日商簿記1級は大変難易度が高く、高校生の合格は過去愛媛県では7人しかいません。授業と、土曜教育で専門学校の先生に御指導していただくことにより、まず受験すること、そして合格を目指しています。

①～⑤ 簿記に関する専門的な知識を習得する。

工業簿記 / 原価計算 高路 正明先生

「個別原価計算」・「総合原価計算」・「標準原価計算」・「設備投資の意思決定」について、基本から本試験レベルの問題まで詳しく教えてくださった。

基礎をしっかりと押さえた上で、大変分かりやすく教えてくださった。毎回6時間という長時間の授業であったが、3回ともに熱心に指導してくださった。



(生徒の感想)

- ・ 部門別個別原価計算が前よりスピードアップして解けるようになった。
- ・ 先生の指導のおかげで、工程別総合原価計算の大問が解けるようになってうれしかった。
- ・ 標準原価計算の差異分析が2級よりも難しくなって、解けなくてあきらめそうになっていたが、問題をしっかりと読み、根気よく解いていこうと思った。



商業簿記 / 会計学 高橋 陣 先生

「連結会計」と「外貨換算計」・「デリバティブ会計」について教えていただいた。

どれも、大変難しいところであるが、基礎から生徒の興味・関心を引くように分かりやすく教えてくださった。

(生徒の感想)

- ・ 連結会計は苦手だったのですが、連結第2年度の仕訳ができるようになって、うれしかった。
- ・ ゆっくりした授業の流れだったので、理解を確かめながら学習を進めることができた。
- ・ 分かりやすく御指導いただいたので、合格に向けて頑張りたい。
- ・ とても分かりやすく、楽しく教えていただいたので、6時間頑張れた。



【成果】

- ・ 簿記の専門的な内容を分かりやすく生徒に教えてくださったことで生徒の理解が深まった。
- ・ 日商簿記の1級や全経上級は、難しく受験することなど考えられなかった生徒が、土曜教育で専門学校の先生に教えていただいたことで、やる気や意欲を高め、頑張ることができた。

【課題】

- ・ 部活動を一生懸命にする生徒が多いため、土曜日の教育活動と部活動との調整を図りたい。
- ・ 指導していただける内容を有効に活かすことができるように、内容を授業と連携させ、より効果的な実施につなげたい。

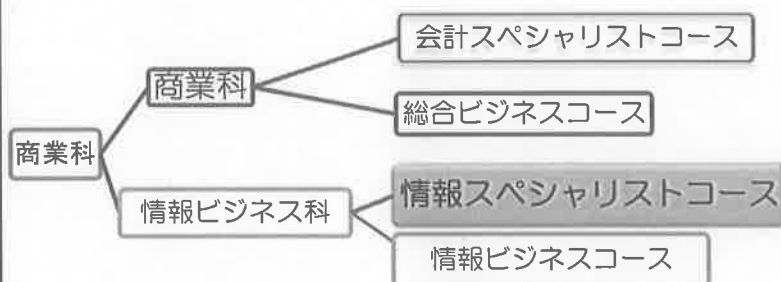
今治北高等学校	No. 2	基本情報技術者試験受験対策講座			
教育活動の目的	ビジネス社会で活躍できる人材の育成のため、難易度の高い基本情報技術者試験等への合格を目指し、土曜日に受験対策講座を実施し、専門学校の講師の方に指導していただき、専門的な知識を身に付けさせる。				
校長氏名	石川 達也	対象学科 学年	商業科 2年	教育活動 実施日数	5日
コーディネーター氏名	久保 徳之	参加のべ 生徒数	82名	教育活動 時間数	20時間
土曜教育推進員	渡部 隼也	広島会計学院電子専門学校	ハードウェア、アルゴリズム等の指導		
	中上 佳奏	広島会計学院電子専門学校	データ構造、ネットワーク等の指導		
	田森 謙一	広島会計学院電子専門学校	データベースの指導		

【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 8. 30	情報処理技術に関する専門的な知識を習得する。 (ハードウェア・情報処理システム・ソフトウェアアルゴリズムⅠ)	4	商業計算実習室	18
②	H26. 9. 13	情報処理技術に関する専門的な知識を習得する。 (データベースⅠ・アルゴリズムⅡ・通信ネットワーク)	4	商業計算実習室	16
③	H26. 10. 25	情報処理技術に関する専門的な知識を習得する。 (データ構造とアルゴリズムⅢ・システム開発の基礎ネットワークⅡ)	4	商業計算実習室	14
④	H26. 12. 6	情報処理技術に関する専門的な知識を習得する。 (情報システム戦略・経営戦略企業と法務についての講義)	4	商業計算実習室	16
⑤	H27. 1. 31	情報処理技術に関する専門的な知識を習得する。 (データベースⅡ)	4	商業計算実習室	18

今治北高等学校商業科 情報ビジネス科のコース

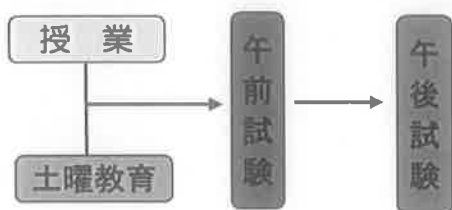
今治北高等学校商業科では、2年生から二つのコースに分かれて学習します。



商業科は、商業科と情報ビジネス科があり、2年生からそれぞれコースに分かれて勉強をします。

情報ビジネス科の情報スペシャリストコースでは、情報処理を中心に学習し、国家資格の基本情報技術者試験の合格を目標に学習を進めています。

基本情報技術者試験取得への道のり



情報スペシャリストコースが目指して学習している基本情報技術者試験は、国家資格であり、大変難易度が高いものです。

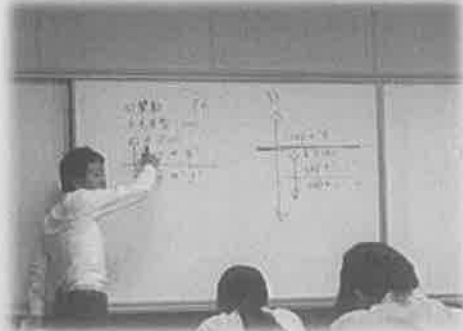
授業と、土曜教育で専門学校の先生に御指導していただくことにより合格を目指しています。

①～⑤ 情報処理技術に関する専門的な知識を習得する。

渡部 隼也先生・中上 佳奏先生・田森 謙一先生

情報技術全般の知識を問われる情報処理技術者試験に対して、論理的思考能力やプログラム作成能力を身につけさせるために基礎から本試験レベルまで詳しく教えてくださった。

基礎をしっかり押さえた上で、大変わかりやすく説明してくださった。



(生徒の感想)

- ・ 苦手な分野であるアルゴリズムについて丁寧に説明していただき、よく分かるようになって、うれしかった。
- ・ データベース、セキュリティ分野について熱心に指導いただいたおかげで自信がついた。午後試験に向けて頑張りたい。
- ・ 教えていただいたことを生かして、資格試験に合格できるよう、自分から勉強を頑張りたい。
- ・ 正規化やSQLについてよく分からず悩んでいたが、丁寧に段階を追って説明していただき、しっかり理解することができた。

【成果】

- ・ 情報処理技術全般が出題範囲となり、非常に広範囲となるが、生徒が理解できにくい内容を詳しく丁寧に指導していただき、生徒の理解が深まった。
- ・ アルゴリズムについて、配点が高く、生徒が不得意とする内容であるが、高度資格取得について、興味・関心・向上心をもって取り組む姿勢が養われた。

【課題】

- ・ 基本情報の授業と情報に関する部活動とうまく連携させながら両立させることができるよう工夫したい。
- ・ 個々人の理解度に応じた授業展開が必要となり、授業内容をどの分野を中心に扱えば効率的であるか検討したい。



松山南高等学校 砥部分校		No. 1 問題解決のためのデザイン			
教育活動の目的		社会で活躍するデザイナーやコピーライターを講師に迎え、地元砥部町のPR等を題材に制作活動に取り組み、実践的な企画力を養う。			
校長氏名	梶原 龍吾	対象学科 学年	デザイン学科 2、3 年	教育活動 実施日数	10 日
コーディネーター氏名	安岡 史朗	参加のべ 生徒数	254 名	教育活動 時間数	30 時間
土曜教育推進員	山内 敏功 大野 千佳 隅川 直美	デザイナー コピーライター イラストレーター	問題解決のためのデザインの指導 コピーライターとしての技術的指導 イラストレーターとしての技術的指導		

【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 5. 24	問題解決のためのデザイン、コピーについて理解する。	3	視聴覚教室	22
②	H26. 6. 14	KJ法により砥部町の問題を発見する。	3	視聴覚教室	23
③	H26. 7. 12	問題解決の方法を探る。	3	視聴覚教室	24
④	H26. 9. 13	問題解決の方法を探る。	3	視聴覚教室	26
⑤	H26. 10. 4	各班の問題解決法をプレゼンテーションする。	3	視聴覚教室	28
⑥	H26. 11. 8	問題解決のためのデザイン、イラストレーションについて理解する。	3	ビジュアルデザイン実習室	29
⑦	H26. 12. 13	KJ法により砥部町の問題を発見する。	3	ビジュアルデザイン実習室	30
⑧	H27. 1. 24	問題解決の方法を探る。	3	ビジュアルデザイン実習室	24
⑨	H27. 2. 7	問題解決の方法を探る。	3	ビジュアルデザイン実習室	24
⑩	H27. 3. 14	各班の問題解決法をプレゼンテーションする。	3	ビジュアルデザイン実習室	24

【教育活動の実際】

①「問題解決のためのデザイン」という概念を理解する。



第1回の講座では、愛媛デザイン協会会長の山内敏功氏に「問題解決のためのデザイン」という考え方について話していただいた。山内氏は、実際に手掛けたブランディングやイベント企画などの仕事を具体的に示しながら生徒にわかりやすく説明された。

生徒は、デザインといえばイラストレーションやポスターを制作することという概念を強く持っていたので、発想やコンセプトによって問題解決を図ることができるデザインがあることを理解した。また、今回の講座のテーマは、「砥部町を全国にPRする方法を考える」であると知らされた。

②KJ法を使って地域の問題を理解する。



第2回目の講座では、4つの班に分かれて砥部町の問題点について話し合った。それぞれが砥部町の好きなところ、嫌いなところを10個ずつ考えてきて付箋に書き、鳥の子用紙に分類しながらまとめていった。

生徒から出た意見で、好きなところは、「自然が多い、のどか、人が親切、空気がきれい、砥部焼がある」などで、嫌いなところは、「田舎、交通の便が悪い、遊ぶところがない、動物の死骸が多い、寒い」などであった。講師の山内氏と大野氏には、生徒の発表を元に問題解決の材料として使えるような内容を指摘していただいた。夏休みを挟んで、班ごとに問題解決の具体的な方法を検討した。

⑤問題解決法をプレゼンテーションする。

第5回（10月4日）には、各班の問題解決の成果をプレゼンテーションした。パワーポイントを使って企画の内容を説明しながら、実際に制作したポスターやパンフレット、映像などを交えて問題解決の方法を伝えた。



砥部町が運営している無人市「砥れ採れ新鮮組」を発信するためのポスターやパンフレットを制作した。実際に生産者の方に取材をして、モデルを務めていただいたりもした。プレゼンテーションでは寸劇なども織り交ぜ、説得力のある提案に仕上がった。

砥部町の町内放送に着目し、砥部焼伝統産業会館にある陶琴を使って、「やきものでできた音」で放送を行うという企画を提案した。曲の内容も砥部町のキャッチフレーズをイメージして設定した。今後は、砥部町ウインドアンサンブルや砥部中学校などの協力を得て、企画を実現していく予定である。

女子高生目線で見た砥部町のかくれたおいしい店の紹介という内容でプレゼンテーションを行った。紹介する店にスタンプラリーができるパンフレットを置いてもらい、集めたスタンプの数によってプレゼントがもらえるという企画である。実際にお店に交渉して、プレゼントなどの協力を仰ぐ所まで行った。

【成果】

- ・デザインの現場で活躍されている方を講師に迎えることができ、教員だけでは指導できない新しい発想や専門的な技術を生徒に体験させることができた。
- ・実際に社会で生かすことができるデザインという切り口で制作を体験することができた。
- ・グループワークという新しい形態での制作活動が経験でき、学習意欲が高まった。
- ・学校がある砥部町と今まで以上に密接な関係を築くことができた。また、今後の発展も期待できる。

【課題】

- ・前半は3年生対象・全員参加で行ったため、進路関係の行事や家庭の事情などで、参加できなかった生徒も見受けられた。
- ・前半5回でプレゼンテーションにまで持つて行くためには、土曜教育事業以外の時間も多く使わなくてはならず、生徒も担当教員もかなりの負担があった。来年度は、2年生対象で通年で行ってはどうかという意見も出ているので検討したい。

松山南高等学校  
砥部分校

No. 2 陶芸作品の制作～砥部焼の魅力～

教育活動の目的	地元龍泉窯の代表を講師に迎え、伝統的な砥部焼の魅力を生かしながら、新しい発想の陶芸作品作りに挑戦する。前期は、砥部焼のなめらかな光沢を生かした照明づくりに取り組む。				
校長氏名	梶原 龍吾	対象学科 学年	デザイン学科 2、3年	教育活動 実施日数	10 日
コーディネーター氏名	安岡 史朗	参加のべ 生徒数	69 名	教育活動 時間数	30 時間
土曜教育推進員	池田富士夫	陶芸家	砥部焼の技術の指導		

【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 5. 24	素材を生かしたデザインを考え、作業工程を確認する。	3	工芸実習室	8
②	H26. 6. 14	作品制作に取り組む。	3	工芸実習室	8
③	H26. 7. 12	作品制作に取り組む。	3	工芸実習室	8
④	H26. 9. 13	作品制作に取り組む。	3	工芸実習室	8
⑤	H26. 10. 4	完成した作品をもとにプレゼンテーションの準備をする。	3	工芸実習室	8
⑥	H26. 11. 8	ロクロ技術について指導を受ける。	3	工芸実習室	6
⑦	H26. 12. 13	作品制作に取り組む。	3	工芸実習室	5
⑧	H27. 1. 24	作品制作に取り組む。	3	工芸実習室	6
⑨	H27. 2. 7	作品制作に取り組む。	3	工芸実習室	6
⑩	H27. 3. 14	作品発表会の準備を行う。	3	工芸実習室	6

【教育活動の実際】

①「第1回四国照明デザインコンテスト」出品作品を企画する。



第1回の講座では、龍泉窯代表で陶芸家の池田富士夫氏に来ていただき、「第1回四国照明デザインコンテスト」に出品する作品のアイデアを練った。

対象生徒は、3年生のセラミッククラフトコースとウッドクラフトコース（卒業制作）の生徒8名であり、普段は別々の講座で授業を行っているため、陶芸と木工をどのように組み合わせて照明器具に生かすのかについて話し合った。

その結果、透かしを入れた陶板を木の枠に入れた構造の照明器具を製作することが決定した。

②～④陶芸班の製作



春夏秋冬の季節ごとに9つの図案を考え、陶板にトレースして自作の刃物で切り抜いていく。



乾燥させ素焼きした陶板を窯から取り出し、細部の修正と仕上げをしていく。



釉薬を吹き付け本焼きした陶板。砥部焼と言えば染め付けの濃い青のイメージが強いが、照明器具なのであえて淡い色調で仕上げた。

## ②～④木工班の製作



設計図を元に、昇降版を使って部材を加工していく。危険を伴うので、慎重に作業を進める。



一応組み上がった枠の前側の部分。焼き上がった陶板を嵌め込んでから、かなりの微調整が必要だった。

加工した部材を順番に組み立てていく。釘を使わずホゾで組むため計画性が必要とされる。

## ⑤完成作品と照明コンテストでのプレゼンテーション



完成した作品。季節ごとに前面の枠を替えて楽しむことができる。また、小さな四角いボックス型の照明と組み合わせて、光の効果を演出することもできるようにした。砥部町の商店街で店のディスプレイとして使ったり、小さいボックス型の照明をフットライトとして使ったりすることもできる。



10月18日(土)に高松で行われた第1回四国照明デザインコンテストでは、「やきものの町の美と創作のあかり」というタイトルでプレゼンを行い、参加校9校中2位(アイデア賞)をいただくことができた。地元の砥部焼を照明に行かした点とプレゼンの明快さが評価された。

### 【成果】

- ・陶芸家の方を講師に迎えることで、ろくろや成形の技術をより専門的に指導してもらうことができた。
- ・普段は別々に活動している実習の班が、協力して一つの作品を作り上げていくという貴重な体験ができた。またその中で、自分たちのアイデアを話し合いによって形にしていくということもよい経験となった。
- ・作品自体の使用目的が明確であったし、外部のコンテストに出品するという条件で行ったため、作品の完成度に対する意識が高まった。また、期限内に完成する必要があり、製作の計画性が高まった。

### 【課題】

- ・陶芸班は、10月上旬に出品する県展制作と時期が重なったため、窯入れや焼成の作業で休日を返上して対応しなくてはならなかった。また、10月のプレゼンテーションに向けて作品を完成させるため、前半5回の土曜教育事業以外の時間を多く使わなくてはならなかった。また、木工班に関しても夏休みやプレゼンテーション直前の時期には、かなりの時間を割いて制作した。生徒・教員の負担を考えると、計画の工夫が必要である。

松山南高等学校 砥部分校		No. 3 伝統文化に触れる茶道教室			
教育活動の目的	地域の茶道講師を迎え、茶道の作法や道具について学びながら、日本の伝統文化に触れる。				
校長氏名	梶原 龍吾	対象学科 学年	デザイン学科 1、2年	教育活動 実施日数	10 日
コーディネーター氏名	安岡 史朗	参加のべ 生徒数	70 名	教育活動 時間数	30 時間
土曜教育推進員	佐々木 良子	茶道講師	茶道の点前の指導、道具に関する講義		

【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 5. 24	和室の作法と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	8
②	H26. 6. 14	初歩の点前と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	8
③	H26. 7. 12	初歩の点前と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	8
④	H26. 9. 13	初歩の点前と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	8
⑤	H26. 10. 4	茶会の持ち方と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	8
⑥	H26. 11. 8	和室の作法と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	6
⑦	H26. 12. 13	初歩の点前と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	6
⑧	H27. 1. 24	初歩の点前と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	6
⑨	H27. 2. 7	初歩の点前と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	6
⑩	H27. 3. 14	茶会の持ち方と茶道の道具について学ぶ。	3	和室	6

【教育活動の実際】

①②割稽古と盆略点前



第1回と第2回の講座では、袱紗のさばき方、茶杓の拭き方、茶笥の使い方など、道具の基本的な使用方法について指導を受けた。道具を使うことが初めての生徒もおり、戸惑いながらも作法を習得した。また、最も簡略な盆略点前について学習した。

③～⑤平点前と立礼点前

3回目以降は、高文祭での茶会に向けて練習を積み重ねた。



愛媛県高等学校総合文化祭美術・工芸展会場での茶会



【成果】

- ・ 茶道講師を迎えて指導していただき、茶道や日本文化の深さや美しさに触れることができた。
- ・ 習得した盆略点前・平点前・立礼（りゅうれい）点前を、高文祭での茶会に生かすことができ、生徒の自信や達成感につながった。
- ・ 茶道講師による道具の呈示や説明で、茶道の歴史や道具に触れることができた。

【課題】

- ・ 前半と後半で受講生が異なり回数が少なかったため、点前の習得に不十分な生徒もいた。
- ・ 点前の習得に重点を置いたため、茶道の歴史や道具に関する学習がやや不足した面があった。

松山商業高等学校

No. 1

日商簿記受験対策講座

教育活動の目的	社会において必要とされている日商簿記検定2級合格を目指す生徒を対象に受験対策講座を実施することにより、地域産業を担うビジネスのスペシャリストを育成する。				
校長氏名	大浦 哲雄	対象学科 学年	全学科 2, 3 年	教育活動 実施日数	5 日
コーディネーター氏名	平井 貢	参加のべ 生徒数	242 名	教育活動 時間数	30 時間
土曜教育推進員	光田 忠	愛媛大原簿記公務員 専門学校 愛媛校	日商簿記2級に関わる受験対策指導		
	門田 研太郎	愛媛大原簿記公務員 専門学校 愛媛校	日商簿記2級に関わる受験対策指導		
	内梨 雄太郎	愛媛大原簿記公務員 専門学校 愛媛校	日商簿記2級に関わる受験対策指導		

【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 5. 24	第137回日商簿記検定対策講座①	6	視聴覚教室	48
②	H26. 6. 7	第137回日商簿記検定対策講座②	6	視聴覚教室	48
③	H26. 10. 25	第138回日商簿記検定対策講座①	6	視聴覚教室	46
④	H26. 11. 8	第138回日商簿記検定対策講座②	6	視聴覚教室	60
⑤	H27. 2. 21	第139回日商簿記検定対策講座①	6	視聴覚教室	40

【教育活動の実際】

① 第137回日商簿記検定対策講座①



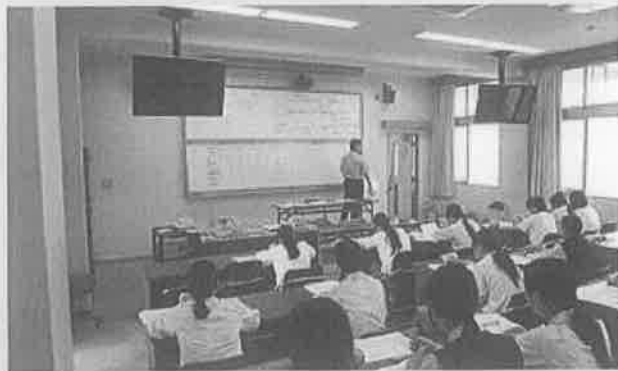
愛媛大原簿記公務員専門学校の光田 忠先生をお招きし、日商簿記検定2級の対策講座を実施した。検定の受験対策だけでなく、先生のこれまでの経験談なども時折話していただき、生徒の進路選択の勉強にもなった。

【講座内容】

- 1 工業簿記、原価計算のしくみについて
- 2 総合原価計算について
- 3 ワークシートの作成について
  - (1) 基本形（平均法・先入先出法）
  - (2) 材料の投入点
  - (3) 減損の取扱い
  - (4) 仕損の取扱い
- 4 過去試験問題に挑戦



### ②第137回日商簿記検定対策講座②



愛媛大原簿記公務員専門学校の門田研太郎先生をお招きし、検定直前の対策講座を実施した。午前中は、商業簿記の分野についての授業を行った。

#### 【講座内容】

- 1 社債の発行
- 2 社債の決算整理
- 3 社債の償還
- 4 消費税
- 5 有価証券
- 6 直前のファイナルチェック
- 7 公開模試にチャレンジ

### ③第138回日商簿記検定対策講座①



愛媛大原簿記公務員専門学校の門田研太郎先生をお招きし、直前の日商簿記検定2級対策講座をしていただいた。

午前中は、本番と同じ条件で公開模試の問題に取り組んだ。2時間の試験時間を使って問題を解くことで、検定試験のイメージを持つことができた。

#### 【講座内容】

- 1 公開模試に挑戦
- 2 本支店会計

### ④第138回日商簿記検定対策講座②



愛媛大原簿記公務員専門学校の内梨雄太郎先生をお招きし、工業簿記の月末仕掛品原価の算出を中心に授業をしていただいた。

専門学校で解いているノウハウを生徒に分かりやすく解説していただき、間違いやすい計算問題をこなしていくことができた。

#### 【講座内容】

- 1 月末仕掛品原価の算出
- 2 本支店会計

#### 【成果】

・日商簿記検定2級の合格者は、33名を出すことができた。今後、2月の検定試験においてさらに増えることが予想される。

・日商簿記検定2級の合格を、大学や専門学校等への推薦や会計事務所への就職内定に生かすなど、簿記検定資格取得が生徒の進学や就職につながり、成果を上げることができた。

#### 【課題】

・日商簿記検定2級に合格した生徒が職業会計人を目指し、次の目標として、日商簿記検定1級や全経簿記能力検定上級などさらに上位の検定にチャレンジしていけるよう指導や意識付けを図っていきたい。

・簿記を通して、将来の進路選択や目標に向けての指導を行っていきたい。



松山商業高等学校

No. 2

日商販売士検定受験対策講座

教育活動の目的

地域の専門学校と連携を図り、主として本校流通経済科の生徒を対象として、身近な内容で実務に役立つ「日商販売士検定」取得のための講座を通して流通分野のスペシャリストを育成する。

校長氏名

大浦 哲雄

対象学科  
学年

流通経済科  
3 年

教育活動  
実施日数

2 日

コーディネーター氏名

平井 貢

参加のべ  
生徒数

25 名

教育活動  
時間数

8 時間

土曜教育推進員

山下 恭司

河原電子ビジネス専門学校

日商販売士検定試験に関わる受験対策指導

【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 6. 28	日商販売士検定試験の3級に関する基礎的知識を習得する。	4	視聴覚教室	8
②	H26. 7. 5	日商販売士検定試験の3級に関する基礎的知識を習得する。	4	視聴覚教室	17

【教育活動の実際】

①日商販売士検定試験3級の概要と基礎知識を理解する。



河原電子ビジネス専門学校の山下 恭司先生に、日商販売士検定試験の概要と基礎的な知識について御指導いただいた。事前に用意された資料とスライドを用いてスクリーンで視覚的に分かりやすく示しながら、身近で興味深い内容を交えて説明された。

【講義内容】

- 1 マーチャンダイジング
  - ・ 商品とは、商品の特徴
  - ・ 商品分類（制度分類・慣用分類）
- 2 マーチャンダイジングの構成要素
- 3 商品計画の基本知識
- 4 販売計画および仕入計画の基本的役割
- 5 在庫管理の基本的役割

②日商販売士検定試験3級に関する専門的知識を理解する。

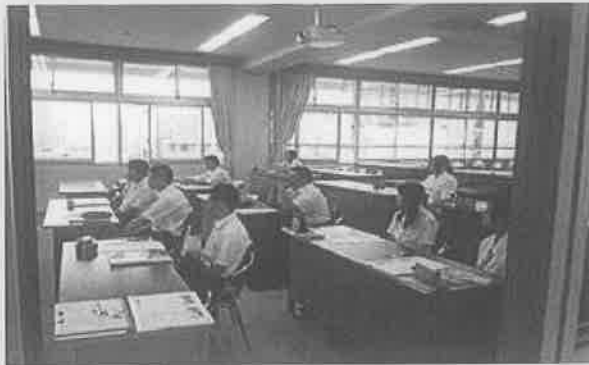


【講義内容】

ストアオペレーション

- 1 荷受け・検収の違い、ディスプレイの役割
- 2 陳列什器によるディスプレイ
  - ・ 平台陳列、ハンガー陳列、 Gondola 陳列
  - ・ フック陳列、ボックス陳列、ショーケース陳列
  - ・ エンド陳列、ステージ陳列、カットケース陳列
- 3 販売方法の特徴によるディスプレイ
  - ・ 前進立体陳列、ジャンブル陳列
  - ・ オープン陳列、サンプル陳列
  - ・ レジ前陳列、アイランド陳列
  - ・ 壁面陳列

③日商販売士検定試験の慶事・弔事に関する知識を習得する。



【講義内容】

- 1 包装技術の基本的知識  
斜め包みと合わせ包み、ひものかけ方  
和式進物の要点、のし、慶事・弔事での違い
- 2 顧客の購買心理過程と接客技術
- 3 単元小テストの実施と解説

④日商販売士検定試験の問題演習に取り組む。

(生徒の感想)

- ・内容がよく理解できたので、講座を受講してとても良かった。
- ・講師の先生が、用意してくださった販売に関する要点や模擬問題等をまとめた資料を、自分の勉強に役立てることができた。
- ・今回の講座を受けて、販売に関する基本や特徴について理解を深めることができ、成績向上につながった。
- ・販売士検定のテキストは、図説や説明文も詳細で読まないと理解できない部分も多く、理解が容易ではないので、今回のように要点がまとめられた授業はとても役立った。

【成果】

・講座では、日本商工会議所認定資格である販売士検定試験の出題範囲のうち、基礎的知識から専門的スキルに関する内容について知識の習得を図ることができた。そして、7月の第74回検定試験では、受験した13名全員が3級に合格できた。さらに、3級合格者のうち2名が継続して意欲的に学習に取り組み、10月の第42回検定試験で見事2級に合格することができた。将来、流通分野の専門家として活躍するための知識やスキルが身に付いたと考えられる。

【課題】

- ・生徒の検定試験や学校行事に加え、1学期は3年生にとって進路決定に向けての重要な時期であることから、実施する日を選定することが難しい面がある。また、土曜教育を担当する教員にとっては、土曜日の部活動指導や学校行事と重なり、代休が取りにくいことも課題である。
- ・今後、学校行事や検定試験、各部活動の大会との兼ね合いを見ながら土曜教育の実施日を検討していく必要がある。

松山商業高等学校

No. 3

語学検定受験対策講座

教育活動の目的	土曜日を効果的に活用し、高度なレベルの語学検定の合格を目指す生徒を対象に受験対策講座を実施することにより、地域産業を担うビジネスのスペシャリストを育成する。				
校長氏名	大浦 哲雄	対象学科 学年	全学科 3 年	教育活動 実施日数	2 日
コーディネーター氏名	平井 貢	参加のべ 生徒数	107 名	教育活動 時間数	8 時間
土曜教育推進員	真野 剛	松山大学	語学検定試験に関わる受験対策指導		
	浅野 剛	松山大学	語学検定試験に関わる受験対策指導		
	櫻井啓一郎	松山大学	語学検定試験に関わる受験対策指導		
	池上 真人	松山大学	語学検定試験に関わる受験対策指導		

【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 7. 12	語学検定試験に関する基礎的知識を習得する。	4	視聴覚教室	67
②	H27. 3. 14	語学検定試験に関する基礎的知識を習得する。	4	視聴覚教室	40

【教育活動の実際】

①語学力向上の概要と基礎知識を理解する。



松山大学の真野 剛先生に、アメリカ文学を学ぶ環境保護というテーマで語学力の向上や文学から何を学ぶのかという内容で御指導いただいた。

真野先生は、実際に御自身がアメリカを訪問された時の写真や事前に用意された資料とスクリーンでパワーポイントを用いながら、生徒の興味・関心を高めるように分かりやすく説明してくださった。

【講義内容】

- 1 アメリカ
- 2 アメリカ文学
- 3 解放運動
- 4 国立公園の誕生
- 5 文学の一ジャンル

②コミュニケーション能力の必要性を理解する。



松山大学の浅野 剛先生に、ルーズベルト・ゲームをモチーフとした会社組織とその運営の方法について御指導いただいた。また、コミュニケーション能力の向上の必要性についても先生の留学時の体験談を中心とした内容で御指導いただいた。さらに浅野先生は、人として生きる上で重要なフィロソフィー（理念や生きる上での指針）について強調され、大学生の実態を踏まえ、高校生たちに目的をもって学ぶことの大切さを説明された。

【講義内容】

- 1 会社の組織と運営
- 2 コミュニケーション能力の向上

### ③大学での学びの大切さを理解する。



#### 【講義内容】

- 1 大学生活とは
- 2 4年間で何を学ぶか
- 3 コミュニケーション能力の向上とは
- 4 大学卒業後の進路について

### ④各種の語学検定試験に取り組む。

#### (生徒の感想)

- ・大学の先生から体験談を通じて、コミュニケーション力は、人生において大切なことのひとつだと理解でき、受講してとても良かった。
- ・大学を受験するにあたって、自分は大学で「何を学ぶか」をしっかりと考え、自分の進路にあった大学を調べて受験しなければならないと強く感じた。
- ・英語の学習を通じてアメリカの社会問題や環境問題について理解することができ、興味がわいたので、もっと深く勉強したいと思った。
- ・講座を通して、「文学を学ぶ」のではなく、「文学から何かを学ぶ」という意味について理解を深めることができた。

#### 【成果】

- ・語学講座を開講することで、生徒はコミュニケーション能力の向上の必要性や、大学での学びの基本や卒業後の進路を具体的にイメージし、進路選択の指針とすることができた。
- ・単なる英語検定試験合格という目標にとどまらず、その資格を生かしてどのように社会で貢献できるかというレベルまで生徒の意識を引き上げることができた。

#### 【課題】

- ・生徒の受験する語学検定試験には全商英語検定、実用英語検定、TOEIC、漢字検定、日本語検定等の検定がある。これらのすべてを指導していくのは困難であるが、今回の講座がきっかけとなり語学検定の意味や必要性を生徒が理解できればと考える。そのためには、今後も地域の様々な有識者の力を借り、日程の調整をしながら土曜教育の実施日を検討していく必要がある。

松山商業高等学校

No. 4

基本情報技術者試験受験対策講座

教育活動の目的

地域の専門学校と連携を図り、主として本校情報ビジネス科の生徒を対象として、難易度の高い国家試験「基本情報技術者試験」合格のための講座を実施することを通して情報のスペシャリストを育成する。

校長氏名

大浦 哲雄

対象学科  
学年情報ビジネス学科  
2, 3 年教育活動  
実施日数

5 日

コーディネーター氏名

平井 貢

参加のべ  
生徒数

110 名

教育活動  
時間数

30 時間

土曜教育推進員

大瀧 一幸

河原電子ビヅ専  
門学校

基本情報技術者試験に関わる受験対策指導

## 【教育活動の計画】

	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 9. 20	基本情報技術者試験の情報基礎理論に関する知識を理解する。	6	視聴覚教室	20
②	H26. 10. 4	基本情報技術者試験のプログラムに関する知識を理解する。	6	視聴覚教室	31
③	H26. 10. 11	基本情報技術者試験のセキュリティに関する知識を理解する。	6	視聴覚教室	19
④	H27. 3. 21	基本情報技術者試験の問題演習に取り組む。	6	視聴覚教室	20
⑤	H27. 3. 28	基本情報技術者試験の問題演習に取り組む。	6	視聴覚教室	20

## 【教育活動の実際】

## ①基本情報技術者試験の情報基礎理論に関する知識を理解する。



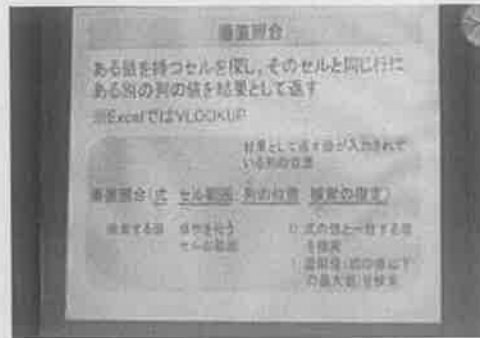
河原電子ビヅ専門学校の大瀧一幸先生に、基本情報技術者試験の概要と基礎的な知識を教えていただいた。

大瀧先生は、視覚的に理解できるようスクリーンを使って図を示しながら、また、平易な言葉で説明されるなど、生徒が分かるよう工夫をされながら指導して下さった。

## 【講義内容】

- 1 セキュリティ  
ハニーポット、セキュリティパッチ、ヒューリスティック、ゼロデイ攻撃、DMZ（非武装地帯）
- 2 データベースにおけるSELECT文
- 3 データ構造  
判定文、繰り返し文、スタック、データの取り出し、データの格納、LIFO

## ②基本情報技術者試験の表計算に関する知識を理解する。



### 【講義内容】

- 1 セルの参照  
相対参照 垂直参照 マクロ相対表現
- 2 浮動小数点の計算

## ③基本情報技術者試験のセキュリティに関する知識を理解する。



### 【講義内容】

- 1 データの暗号化  
公開鍵暗号方式、共通鍵暗号方式
- 2 アルゴリズム
- 3 シフト演算  
循環演算、左シフト演算、右シフト演算

## ④⑤基本情報技術者試験の問題演習に取り組む。(予定)

### (生徒の感想)

- ・難しい用語を簡単な言葉で説明していただけて分かりやすかった。
- ・アルゴリズムなどの説明に図などを使って教えていただいたことがよかった。
- ・マクロ言語、相対番地、浮動小数点数について理解を深めることができた。
- ・アルゴリズムの問題の解き方のコツや覚えておくべきものなどをしっかり丁寧に教えていただいたので、基本情報技術者試験に役立てたい。

### 【成果】

・国家資格である基本情報技術者試験に取り組むことによって、基礎的知識や理論が身に付いた。結果、本校より2名の基本情報技術者試験合格を出すことができた。また、土曜日の学びが、本校の「ビジネス情報」、「プログラミング」の授業の補完的な役割を果たすことで、生徒の理解が深まるとともに、将来、情報のスペシャリストとして活躍するための基礎的知識や技能が身に付いたと考えられる。

### 【課題】

- ・生徒の部活動や検定試験や学校行事の関わりの中で、土曜教育を実施する日を選定することが難しい面もある。土曜教育を担当する教員にとっては、土日の部活動指導や学校行事と重なり、代休が取りにくいことも課題である。
- ・今後、学校行事や検定試験、各部活動の大会との兼ね合いを見ながら土曜教育の実施日を検討していく必要がある。

松山商業高等学校

No. 5

ITパスポート試験受験対策講座

教育活動の目的

土曜日を効果的に活用し、国家試験を目指す生徒を対象に受験対策講座を実施することにより、地域産業を担うビジネスのスペシャリストを育成する。

校長氏名

大浦 哲雄

対象学科  
学年商業学科  
1～3年教育活動  
実施日数

5

日

コーディネーター氏名

平井 貢

参加のべ  
生徒数

106名

教育活動  
時間数

30時間

土曜教育推進員

梶原 直樹

河原電子ビジネス  
専門学校

ITパスポート試験受験のための講義

## 【教育活動の計画】

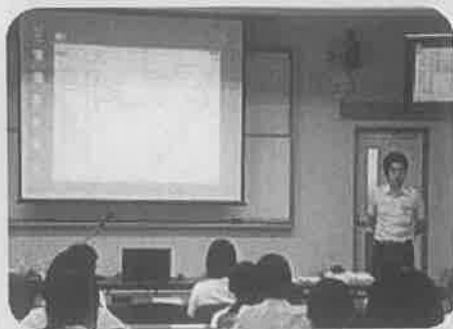
	月日	主な教育活動	時間	場所	参加生徒数
①	H26. 7. 19	アルゴリズムとデータ構造を理解する。	6	視聴覚教室	31
②	H26. 8. 30	コンピュータシステムの構成要素を理解する。	6	〃	25
③	H26. 12. 20	データベースの仕組み、情報セキュリティを理解する。	6	〃	17
④	H27. 1. 31	ソフトウェア、OSを理解する。	6	〃	15
⑤	H27. 3. 7	ファイルおよび管理の仕組み、方法を理解する。	6	〃	18

## 【教育活動の実際】

① アルゴリズムとデータ構造を理解する。

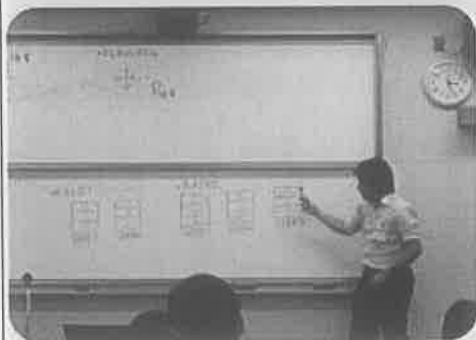
⇒

② コンピュータシステムの構成要素を理解する。



河原電子ビジネス専門学校の梶原直樹氏に国家試験であるITパスポート試験受験対策のための講義をしていただいた。

梶原氏は、情報処理で用いる数の表現や集合論、確率、その他の情報理論について、生徒の理解程度や学校での学習内容を確認しながら分かりやすく説明して下さった。

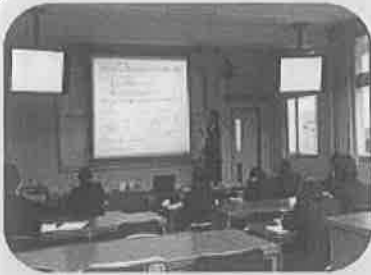


また、第2回目の8月30日には、前回の講義内容を踏まえ、より具体的な受験対策用の模擬問題のプリントを多数用意していただき、一問ずつ詳しい解説をプロジェクターやボードを利用して分かりやすく説明していただいた。

日頃、生徒にとっては、あまりなじみのない実社会でのコンピュータシステムの構成について理解を深めることができた。

③ データベースの仕組み、情報セキュリティを理解する。 ⇒ ④ ソフトウェア、OSを理解する。

⇒ ⑤ ファイル及び管理の仕組み、方法を理解する。



第3回目になる講義では、データベースのしくみについて講義していただいた。梶原氏が以前に携わっておられたソフトウェアの開発経験を交えながら、企業におけるコンピュータシステムの開発の基本となるデータベースの意義や機能、種類等について説明していただいた。



第4回目になる講義では、ソフトウェア、OSについて講義をしていただいた。

OSを中心にしてソフトウェアの種類や役割、そして、タスクや仮想記録などの内容について、資料を使いながら詳細に説明をしていただいた。また、生徒の質問にも、丁寧に対応していただき、理解の程度がより深まった。



最終回にあたる第5回目では、ファイル及び管理について講義していただいた。

OSを中心としたファイルの管理について、ファイルの構造をはじめ、分類、階層、検索などの内容について説明をしていただいた。また、まとめとして、受験対策の直前にどのような内容について再度確認すればよいのかなどについて具体的にアドバイスをしていただいた。

(生徒の感想)

- ・ とても充実した時間になった。難しい試験だが、頑張ろうと思った。
- ・ 計算の仕方や単語の覚え方などが学習でき、試験を受けるために生かせる内容であった。
- ・ 学校の授業では経験できない内容を学習することができて、自分の自信につながった。
- ・ 今まで知らなかった効率のよい問題の解き方を新しく学ぶことができた。
- ・ 資料の内容が分かりやすく、とても参考になった。

【成果】

・ 土曜教育推進員を地域の方をお願いしたことで、学校・生徒と相互に好ましい関係を築くことができ、生徒の「やる気」を引き出すことができた。また、常に普通の授業内容や進捗を確認しながら講義をしていただいたので、授業と関連付けながら生徒の理解を深めさせることができた。生徒は、講義を通じて、資格取得に対する意欲や関心が高まり、合格者3名を出すことができた。

【課題】

・ 限られた講義時間の中で、個々の生徒の理解度を図りながら内容をいかに精選していくかという点が大きな課題である。また、5回の講義が単発で終わらず全般にわたって、連続した内容となるよう、生徒の意欲を維持させながら実施していくための工夫が必要と感じた。